


生物多様性とは

地球誕生から約46億年のうち、約38億年という長い年月の中で、多様な生態系が作られ、様々な生き物が誕生し、互いに支え合う関係を築いてきました。この様々な生態系が存在すること、生物の種間、種内に様々な差異が存在することを、「生物多様性」といいます。

また、生物多様性条約では、生物多様性を全ての生物の間に違いがあることを定義し、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとしています。

<p>生態系の多様性</p>  <p>森林、里地里山、河川、湿地、干潟、サンゴ礁など、様々な環境に合わせて生態系が形成されています。</p>	<p>種の多様性</p>  <p>動植物から細菌などの微生物まで、いろいろな生き物が、かかわり合いながら生きています。</p>	<p>遺伝子の多様性</p>  <p>同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があります。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

私たちの暮らしを支える生物多様性の恵み（生態系サービス）

豊かな生物多様性は、自然の恵みとして人間にとって有用な価値を持ち、安全な飲み水や食料の確保等に寄与し、暮らしを支えるものであるだけでなく、多様な文化を育む源泉となり、地域ごとの固有の財産として必要不可欠なものといえます。

自然の恵み 生態系サービス

衣食住 シルク、綿等の天然繊維の衣類 穀物・野菜・肉や魚介類等の食料 木材などの建材、薪、炭等の燃料 etc...	医療 動植物の成分による医薬品 遺伝子研究による最先端医学 etc...	文化・芸術 地域の自然と一体になった伝統文化 自然美に触発された絵画、写真 自然に惹かれるアウトドア体験 etc...
環境・防災 CO2を吸収し、酸素を生み出す植物 飲料水の確保や災害の軽減に役立つ森林 津波の被害を軽減するサンゴ礁 etc...	産業・経済 農業・林業・水産業 エコツーリズムなどの観光産業 etc...	

自然の恵みイメージ図



私たちの生活に貢献する自然の恵みイメージ図。自然から食料、燃料、木材・衣服・薬、水、レクリエーション、CO2の吸収、浄化作用、洪水を防ぐなどのサービスが提供されている。

(出典)「わかる！国際情勢 vol46 地球に生きる生命の条約生物多様性条約と日本の取組」(外務省)より

(出典)パンフレット「かわさき“生きもの多様性”」(川崎市)より

生物多様性の危機

わたしたちの暮らしに必要な生物多様性が、土地改変や資源の過剰利用、環境汚染等、様々な人間活動によって損なわれているといわれています。日本の生物多様性の危機として、次の4つが挙げられます。

<p>第1の危機 開発等の人間活動による危機</p> <p>鑑賞や商業利用のための乱獲・過剰な採取や、埋め立てなどの開発によって、生き物の生息・生育環境を悪化・破壊するなどによる、種の絶滅・減少や生息・生育地の減少</p>	<p>第2の危機 自然に対する働きかけの縮小による危機</p> <p>里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下や、里地里山の動植物の絶滅・過剰繁殖など</p>
<p>第3の危機 外来種などの持ち込みによる危機</p> <p>オオキンケイギクやガビチョウなどの外来種による在来種への影響や遺伝的なかく乱など</p>	<p>第4の危機 地球環境の変化による危機</p> <p>地球温暖化などによる生態系の変化、動植物の絶滅のリスクの上昇など</p>

川崎市の生物多様性の現状と課題

人間の暮らしに必要な生物多様性が、人間の活動によって損なわれているといわれています。この生物多様性の危機について、生き物を取り巻く環境の状況の変化を確認し、課題を認識し、対応していく必要があります。

川崎市では「人と生き物のかかわり」、「生き物を取り巻く環境」、「生物多様性に関する情報」の3つの視点をもって、川崎市における現状から、生物多様性の保全の取組課題を整理しています。

<p>① 人と生き物のかかわり</p> <p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 生物多様性についての知識や意識の浸透が不十分 身近な自然や生き物にふれる機会の減少 	<p><課題></p> <p>人と生き物の<u>つながり</u>を深めるための普及啓発や、生き物にふれる機会づくり等環境教育・環境学習の充実が必要</p>
<p>② 生き物を取り巻く環境</p> <p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 自然的環境の減少、分断化 自然的環境（樹林地や農地等）の質的な劣化 大きな自然環境（市域の水環境や地球温暖化）の劣化 	<p><課題></p> <p>樹林地や農地等の減少により分断化している生き物の生息・生育環境を<u>つなぐ</u>、自然環境の保全に向けた取り組みが必要</p>
<p>③ 生物多様性に関する情報</p> <p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> 生物多様性に関する情報や知見の不足 生物多様性に関する情報の蓄積、発信、利活用が必要 	<p><課題></p> <p>生物多様性に関する情報や知見は十分に整っていないため、様々な生物多様性に関する情報を<u>つないで</u>利活用する取り組みが必要</p>

「つながり」が希薄になっている、あるいは十分でないことが共通の課題

生物多様性かわさき戦略の役割

これらの課題に対応し、川崎市における生物多様性の保全に取り組むため、関連計画との整合性を図りながら効果的に推進していくこととしています。

生物多様性かわさき戦略の役割

- 市の施策を生物多様性の保全という観点で横断的に体系整理し、総合的かつ計画的に施策を推進するための指針とします。
- 様々な行政施策に生物多様性への配慮意識の浸透を図ります
- 多様な主体との連携に向けて生物多様性の保全において目指す将来の姿を描いて共有します。

生物多様性かわさき戦略の位置づけ

